

## 学校経営推進費 評価報告書（1年め）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立長尾高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立大学合格者、難関私立大学（8私大・15私大）のべ現役合格者数の増加</li> <li>・ 医療看護系大学及び専門学校合格率の維持・向上</li> <li>・ 就職内定率 100%維持、公務員試験合格率の向上</li> </ul>
計画名	「学びの改革」プロジェクト1

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 確かな学力の育成と進路実現の支援</p> <p>（1）授業力の向上と確かな学力の育成</p> <p>イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくりを進める。</p> <p>ウ 大学入学者選抜改革を踏まえ、社会で自立するために必要な基礎学力を育成するとともに、生徒の学習習慣の確立を図る。</p>
事業目標	<p>多様な進路希望の実現に向け、『知識・技能』を生かした『思考力・判断力・表現力』を育成し、小論文・プレゼンテーション・面接等でもそれらの力を発揮できるようにすることが喫緊の課題である。</p> <p>本事業により『進路学習室』を整備して、「進路実現の支援」をより一層充実させる。また、その支援を受けて生徒が意欲的・主体的・協働的に学習に取り組むことで、『知識・技能』を生かした『思考力・判断力・表現力』と自信を持ち、希望する進路を実現する。</p> <p>『進路学習室』の整備</p> <p>（1）『進路学習室』の有効活用</p> <p>① 黒板を撤去して、前・横・後面をホワイトボード化し、プロジェクターの投影、教室の分割活用を可能にする。</p> <p>② Wi-Fi環境を整えてタブレットを配備する。学習支援ツールを利用した自学自習や調べ学習への活用につなげる。</p> <p>（2）ICT機器の活用・工夫による学びの充実</p> <p>① 短焦点プロジェクターを設置し、「視覚・聴覚に訴える教材」を活用することで、生徒の思考・理解を深める。</p> <p>② プロジェクター機能付きビデオカメラによる映写、書画カメラやプロジェクターによる投影を可能にする。複数のコンテンツをレスポンス良くホワイトボード上に提示し、有機的に活用することで、生徒の気づきや理解を深める。</p> <p>（3）「主体的・対話的で深い学び」の実現</p> <p>ホワイトボード仕様のパーティションを適宜活用してグループ学習を行う。</p> <p>また、プレゼンや面接を録画して、生徒自身が発表や発言を客観的に振り返るとともに、議論してより良いプレゼンや面接を模索したり、他のグループの学びを共有したりすることで、「主体的・対話的で深い学び」につなげる。</p>

<b>整備した 設備・物品 (数量)</b>	教室2面ホワイトボード設置（1室）、天井吊下げ式電子黒板機能付き短焦点プロジェクター（1台）、書画カメラ（1）、ノートパソコン、ビデオカメラ、三脚、パーティション、タブレット型端末機、充電保管庫、無線ルーター、収納映写台
<b>取組みの 主担・実施者</b>	主 担： 「学びの改革」PT（主に進路指導主事及び情報科教員） 実施者： 主に進路指導部 就職担当者、面接指導及び進路講習担当者、3年進路指導担当者、生物科教員
<b>本年度の 取組内容</b>	¥ ホワイトボード及び短焦点プロジェクターが設置されてからは、大学や短期大学、専門学校等の教員及び関係者による説明会を実施した。生徒の希望する進路に応じて、各大学等の学部・学科の内容や入試の内容等について詳しく知る機会となった。（1年：12/11、2年：10/25、12/10、11、1/31） ¥ 本校担当教員による公務員や就職希望者対象の説明会を実施し、手続きや試験内容の理解を図るとともに、試験問題対策の講習及び面接指導を行った。（面接指導：少ない時期で週に1回、推薦入試等対策期は週に3回から毎日のペースで実施）（センター入試に向けて：9/11、10/22、12/18、1/8、1/21）（就職指導：「面接指導」8/22～9/13、14、10/10、17、18、24、25、12/12、1月下旬随時、1/24 「内定後指導」9/16以降随時、1/8、2/4） ¥ タブレット型端末機の購入、及びWi-Fi環境整備により、進路指導及び授業での調べ学習、プレゼンテーションのデータ作成が可能となった。今年度は、授業については2名の教員が、3年「生物」「自然科学演習（調べ学習のみ）」で活用した。「生物」では、生徒はグループで協力してデータを作成し、動画を取り入れたり質疑応答を取り入れたりするなど工夫が見られ、双方向の発表が実現できた。
<b>成果の検証方法 と評価指標</b>	¥ 国公立大学合格者数：0名⇒1名 ¥ 難関私立大学合格者数：8私大20名以上、15私大80名以上（H28：8私大28、15私大64名⇒H29：17、74名） ¥ 医療看護系大学及び専門学校合格率の維持・向上：大学60%以上、専門学校95%以上（H28：大60%、専54%⇒H29：大50%、専93%） ¥ 就職内定率：100%維持。公務員試験合格率の増加：35%以上（H28：80% →H29：25%）
<b>自己評価</b>	¥ 「国公立大学合格者数」については実現できなかった。……………（△） ¥ 難関私立大学合格者数「8私大」は25名（同志社1、関西3、京産6、近畿6、龍谷9）、「15私大」は95名（25名に加え、関西外9、京都外2、大阪経済3、大阪工業1、佛教5、摂南32、追手門18）と、それぞれ5名・15名上回った。さらに、昨年度0であった武庫川女子大に4名合格した。……………（○） ¥ 医療看護系大学及び専門学校合格率について、大学は78%（○）、専門学校は63%であった。……………（△） ¥ 就職内定率は100%であった。……………（○） ¥ 公務員試験合格率は合格者がなく実現できなかった（指標は35%以上）。……………（△）  ホワイトボード及び短焦点プロジェクターについては、ほぼ計画通り設置が完了し、有効に活用できた。しかし、タブレット型端末とパーティションの購入とタブレット型端末の設定に時間がかかったため、各グループがパーティションに投影しながら、発表内容についてディスカッションしたり、録画した面接指導の振り返りをしたりする活動には利用できなかった。 タブレット型端末について、利用ルールを室内に掲示して自学自習用に活用できたが、授業については、管理、使用上のガイドラインを作成するに至っていない。より安全に活用できるようにルールの整備を進め、教員・生徒にその周知徹底を図っていく必要がある。 公務員は、7人が受験したが、残念ながら、合格者はいなかった。面接で、幅広い視点で考え、答えられるよう2次対策の充実が必要である。

<p>次年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Y 「進路学習室」の利用について、今年度は紙ベースで予約エントリーを行ったが、次年度は利用予約の把握と共有、集計がより円滑かつ効率的にできるよう、予約システムの見直しを6月までに行う。</li> <li>Y 進路学習での利用に影響が出ないよう、授業及び自学自習のための利用について、年間を見通した活用スケジュールを夏期講習が本格化する7月までに調整する。あわせて、その調整状況を踏まえ、使用上のガイドラインは8月完成をめざす。</li> <li>Y 医療看護系大学及び専門学校、公務員については、対象となる生徒の学力や意識等の把握、及び計画的な指導の充実を図るとともに、本人・保護者との連携充実を図る必要がある。把握状況に応じて、学年の進路担当及び担任との連携、学校と本人・保護者との連携をさらに強め、可能な限り早い段階から個に応じた受験対策指導を行う。</li> <li>Y 国公立大学については、挑戦せずに指定校推薦に決定する傾向が依然としてある。あくまでも「生徒の希望する進路の実現」をめざしているので、国公立を希望する生徒の個別指導及び精神面でのサポートをより強化し、希望実現につなげていきたい。</li> </ul>
----------------	--